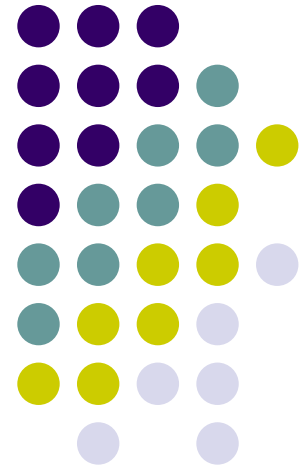


H.18年度 教育学部専門科目
臨床心理学(12)
(臨床精神医学)

教育臨床心理学ゼミ

教育学研究科付属子ども発達臨床研究センター

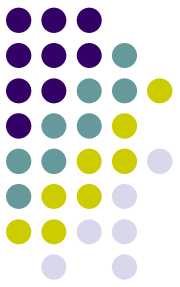
田中 康雄





本日の流れ

- 前回の意見への返答
- 青年期～壮年期にかけて
 - 精神の障害について(1)



前回の意見への返答(1)

- 死の教育について
 - 2005年6月号 教育と医学 で特集を組んでいます。
 - ほそぼそと実践はあるようです。
 - 日本文化にあった教育方法を検討するべきであろう
- 死の前に生きる尊さ, 人について学ぶべきであろう



若者の生きにくさ(1)

- 財)日本青少年研究所(<http://www1.odn.ne.jp/youth-study/>)による高校生の意識調査(2006年3月)では,

j. 将来の進路

	日本	米国	中国	韓国
1. 非常に興味がある	53.9	62.1	63.6	66.3
2. まあ興味がある	36.2	29.2	27.8	29.2
3. あまり興味がない	7.6	6.2	6.7	4.0
4. 興味がない	2.0	1.1	1.3	0.4
無回答	0.2	1.5	0.6	0.1



若者の生きにくさ(2)

- 財)日本青少年研究所による高校生の意識調
(2006年3月)では,

m. 家族のこと

	日本	米国	中国	韓国
1. 非常に関心がある	32.4	59.5	49.9	59.0
2. まあ関心がある	46.7	28.0	38.1	35.5
3. あまり関心がない	15.7	9.4	9.3	4.7
4. 関心がない	4.8	1.7	2.0	0.6
無回答	0.4	1.4	0.7	0.2

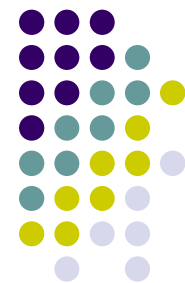


若者の生きにくさ(3)

- 財) 日本青少年研究所による高校生の意識調査(2006年3月)では,

k. 友人関係

	日本	米国	中国	韓国
1. 非常に興味がある	55.6	63.9	62.9	63.9
2. まあ興味がある	36.7	30.1	32.2	33.2
3. あまり興味がない	6.0	4.0	3.4	2.4
4. 興味がない	1.4	1.2	1.0	0.4
無回答	0.3	0.9	0.4	0.1



若者の生きにくさ(4)

- 財)日本青少年研究所による高校生の意識調査(2006年3月)では,

r. 携帯電話や携帯メール

	日本	米国	中国	韓国
1. 非常に興味がある	50.3	28.0	17.0	42.0
2. まあ興味がある	34.7	38.1	30.0	36.6
3. あまり興味がない	10.8	22.0	31.9	16.3
4. 興味がない	4.0	10.2	20.3	4.9
無回答	0.1	1.7	0.7	0.1



若者の生きにくさ(5)

- 財)日本青少年研究所による高校生の意識調査(2006年3月)では。
問7 今、あなたは何か悩みをもっていますか？次の中から選んでください(いくつでもよい)

	日本	米国	中国	韓国
1 勉強や成績	57.2	53.1	77.4	84.2
2 友達関係	25.6	14.6	35.7	41.1
3 健康	16.6	13.2	25.6	36.3
4 進路について	51.6	37.4	50.3	84.0
5 家族関係	12.5	19.4	22.3	20.2
6 自分の容姿や性格	35.9	17.3	19.7	53.4
7 異性との付き合い	21.8	15.0	21.7	31.8
8 家の経済事情	13.6	18.9	23.2	31.4
9 学校の先生との関係	7.8	6.8	16.9	7.3
10 趣味を楽しむ時間が少ない	25.2	24.5	35.7	31.9
11 忙しすぎる	24.5	44.0	31.0	12.8
12 特に悩みがない	11.5	12.0	6.8	2.3
無回答	0.3	2.8	0.0	0.2



若者の生きにくさ(6)

- 財)日本青少年研究所による高校生の意識調査(2006年3月)では,

問8 あなたは現在、大事にしていることは何ですか?あてはまる番号に○をつけてください。

	日本	米国	中国	韓国
1 希望の大学に入学すること	29.3	53.8	76.4	78.0
2 成績がよくなること	33.2	74.3	75.8	73.8
3 自分の趣味や特徴を生かすこと	30.0	39.7	45.9	47.0
4 何か特技をもつこと	22.9	26.2	46.6	43.8
5 友人関係がうまくいくこと	39.8	66.7	52.8	44.3
6 自分で自分の道を決めること	28.1	49.3	39.9	67.4
7 好きな異性と仲良くできること	17.9	46.2	27.7	33.6
8 クラスの人気ものになること	4.9	10.0	19.0	12.4
9 親に自分のことをわかってもらうこと	7.9	36.5	38.4	25.6
10 先生に理解されること	5.6	15.4	26.7	10.2
11 思い切り遊んだり、好きなことをしたりす	34.6	42.7	39.4	51.7
12 家族が仲良くすること	13.8	57.7	42.0	35.2
13 社会に貢献できることを見つける事	10.1	19.3	28.4	12.2
14 部活や競技などで活躍すること	19.6	32.7	17.9	15.2
15 その他	4.8	32.2	8.9	2.7
16 特にない	3.7	0.8	1.8	1.1



若者の生きにくさ(7)

- 財) 日本青少年研究所による高校生の意識調査(2006年3月)では、

c. 父(母)親は私に対して期待が大きい

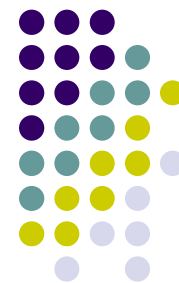
	日本	米国	中国	韓国
1. 父親	24.4	62.1	53.4	67.1
2. 母親	31.5	65.7	56.7	68.8

d. 父(母)親は私をよくほめる

	日本	米国	中国	韓国
1. 父親	17.0	39.6	34.8	37.7
2. 母親	27.1	61.9	48.2	56.3

e. 父(母)親は私をよく叱る

	日本	米国	中国	韓国
1. 父親	21.9	33.9	28.4	29.6
2. 母親	40.2	39.2	41.8	40.6



若者の生きにくさ(8)

- 財) 日本青少年研究所による高校生の意識調査(2006年3月)では、

h. 父(母)親は私の教育に全力を注いでいる

	日本	米国	中国	韓国
1. 父親	19.9	49.8	42.1	37.3
2. 母親	28.1	68.1	50.7	52.9

i. 父(母)親は私の趣味や好きなことをするのに反対する

	日本	米国	中国	韓国
1. 父親	9.8	23.8	29.9	24.1
2. 母親	13.0	22.6	32.4	23.5

j. 父(母)親は私を一人前の大人として扱っている

	日本	米国	中国	韓国
1. 父親	18.7	52.3	44.3	30.8
2. 母親	17.9	49.4	34.7	29.8





若者の生きにくさ(9)

- 財) 日本青少年研究所による高校生の意識調査(2006年3月)では,

n. 父(母)親に自分の悩みを相談する

	日本	米国	中国	韓国
1. 父親	13.6	28.8	27.9	16.3
2. 母親	37.9	58.1	50.9	43.8

o. 父(母)親は私にあまりかかわってもらいたくない

	日本	米国	中国	韓国
1. 父親	17.3	21.8	40.4	31.8
2. 母親	13.6	12.8	22.6	35.6



若者の生きにくさ(10)

- 財)日本青少年研究所による高校生の意識調
(2006年3月)では,

e 自分自身

	日本	米国	中国	韓国
1 とても満足	6.3	34.1	15.6	11.1
2 まあ満足	37.1	49.2	52.2	45.9
3 あまり満足でない	38.5	11.9	25.4	35.2
4 不満足	17.6	2.7	4.3	7.4
無回答	0.5	2.1	2.5	0.5



若者の生きにくさ(11)

- 財)日本青少年研究所による高校生の意識調(2006年3月)では,

b. 人に負けないように頑張りたい

	日本	米国	中国	韓国
1. 全くそう思う	44.9	10.4	54.9	39.7
2. まあそう思う	44.1	34.4	39.3	49.8
3. あまりそう思わない	8.4	44.2	4.6	9.4
4. 全くそう思わない	2.2	6.6	0.5	0.5
無回答	0.4	4.3	0.7	0.6



若者の生きにくさ(12)

- 財)日本青少年研究所による中学生の意識調査(2002年11月)では、
- 自己評価 (「よく当てはまる」の比率、以下も同様)

- 「自分に起こったことは、すべて自分の責任だ」
 - 日本25.2%、アメリカ59.7%、中国46.9%

- 「計画を立てたら、それをやり遂げる自信がある」
 - 日本9.8%、アメリカ54.2%、中国32.8%

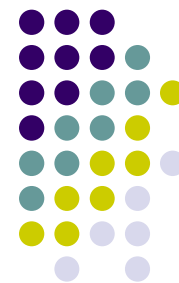
- 「私は自分に大体満足している」
 - 日本9.4%、アメリカ53.5%、中国24.3%

- 「私は人並みの能力がある」
 - 日本15.6%、アメリカ56.5%、中国49.3%

- 「私は他の人々に劣らず価値のある人間である」
 - 日本8.8%、アメリカ51.8%、中国49.3%

子供の成長についての母親の満足度比較

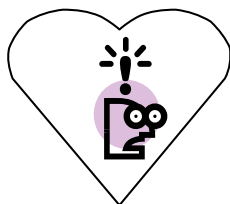
「あなたはわが子の成長に満足していますか」という問いに「満足している」と答えた母親の割合(%)



	日本	韓国	タイ	アメリカ	イギリス	スウェーデン
0～3歳	68.7	78.7	68.5	93.1	92.7	94.4
4～6歳	53.7	61.1	67	88.5	89.1	89.2
7～9歳	47.3	57.8	69.4	82.8	78.1	84.6
10～12歳	36.3	52.9	74.1	84.5	83.3	82.7



精神の障害の考え方

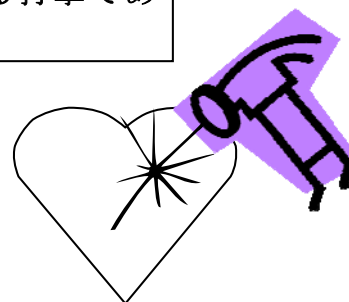


内因

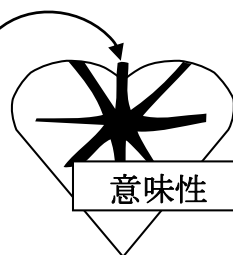
こころの中で起きている。意味性も外の事件との関連もない

外因

こころにとって、外因は、意味性をもたない単なる打撃である



事件



意味性

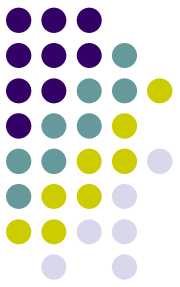
心因

ふつうの意味で「外」の事件でも、こころの中に意味性をもって生じたものを原因とする。



精神科の病気について

- 外因
 - 脳腫瘍, 脳炎, 痴呆など
 - 内因
 - 統合失調症, 躁うつ病(気分障害), 発達障害
 - 心因
 - 神経症, PTSDなど
- 考える順番は, 外因→内因→心因で



統合失調症について

- 1) 原因的には、内因性の
- 2) 精神病であって
- 3) 主として青年期以降に発病し
- 4) しばしば進行性に経過し
- 5) 末期には特有の人格欠陥にいたる可能性をもつ



統合失調症の歴史

- 1800年～
 - 緊張病
 - 破瓜病
 - 妄想病
- 1898年:クレペリン
 - 早発性痴呆
 - 青春期発症, 感情の鈍麻, 慢性経過と荒廃
 - 緊張型, 破瓜型, 妄想型, 単純型
- 1911年:ブロイラー
 - 必ずしも若年発症といえず, 痴呆に進行するとは限らない(概念の拡大へ)
 - 精神分裂病
 - 統合失調症(2002年:病名変更)
- 症候群という捉え



統合失調症の症状・客観症状

- 感情障害
 - 離人症状
 - 易刺激性, 不機嫌
 - 不安, 悲哀
 - 感情の鈍麻
- 意志と欲動の障害
 - 独語, 空笑
 - 自発性の欠如, 興奮
- 自閉・接触性・疎通性の障害
 - 自分の殻に閉じこもる
 - とりつくしまがない
 - 外界への興味の喪失
- 思考と談話の異常
 - 話のまとまりのまずさ, 支離滅裂, 無意味な単語の羅列 (言葉のサラダ) 思考の中断・停止
- 社会行動の異常
 - ひきこもり, 無為, 自傷, 家出, 徘徊
- その他の特徴
 - 意識, 知能, 記憶, 記銘力は保たれる



統合失調症の症状・主観症状

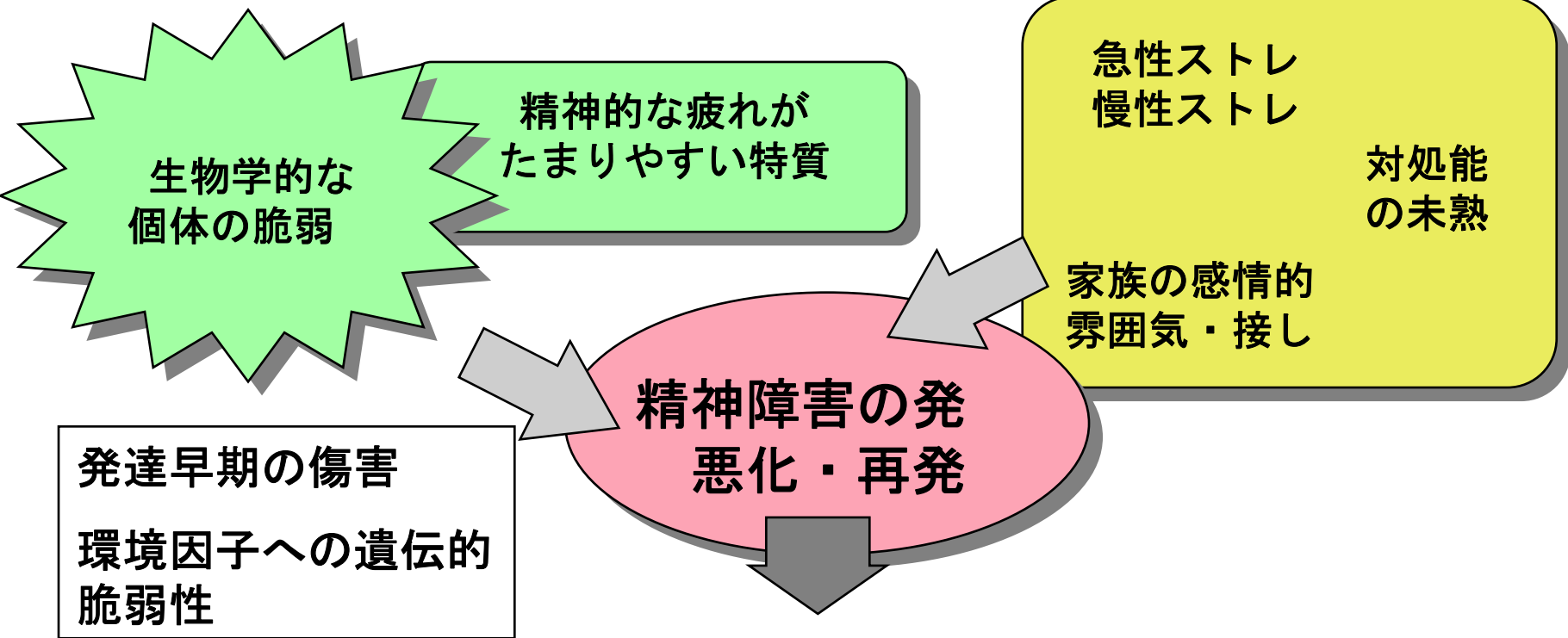
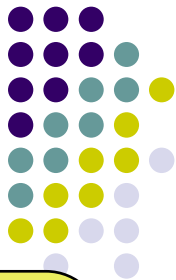
- 妄想
 - 通常の心理では理解できないが確信に至る思考
 - 自己との異常な関連付け
 - 妄想気分
 - 妄想知覚
 - 妄想着想
- 幻覚
 - 幻聴＞幻視
 - 幻嗅, 幻味, 体感幻覚
- 自我意識の障害
 - させられ体験
 - 被操縦感
 - 思考干渉
 - 思考伝搬
 - 思考奪取
 - 病識の欠如
 - 病感はある
 - 恍惚と恐怖



統合失調症の疫学

- 罹病率
 - 1%前後
- 原因
 - 不明. 多因子遺伝と環境要因
 - 発病前の精神的誘因(出立の病理, 色・金・欲)
- 経過と予後
 - 25% 完全寛解
 - 50% 不完全寛解
 - 25% 精神荒廃

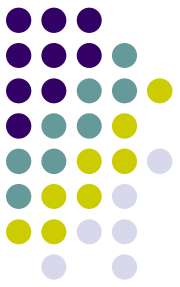
精神障害におけるストレス脆弱性モデル



ノンヒューマンなものになるという不安, あるいはノンヒューマンなものが露呈するのではないかという不安(サールズ)

乗り越えの危機と戦慄, 現実との連続性の喪失(コンラート)

現実との生きる接触の喪失(ミンコフキー)



統合失調症の経過(1)

- ゆとりある状態
- 無理な状態
- 焦りと不安の状態
- 身体の乱れと感覚過敏の時期

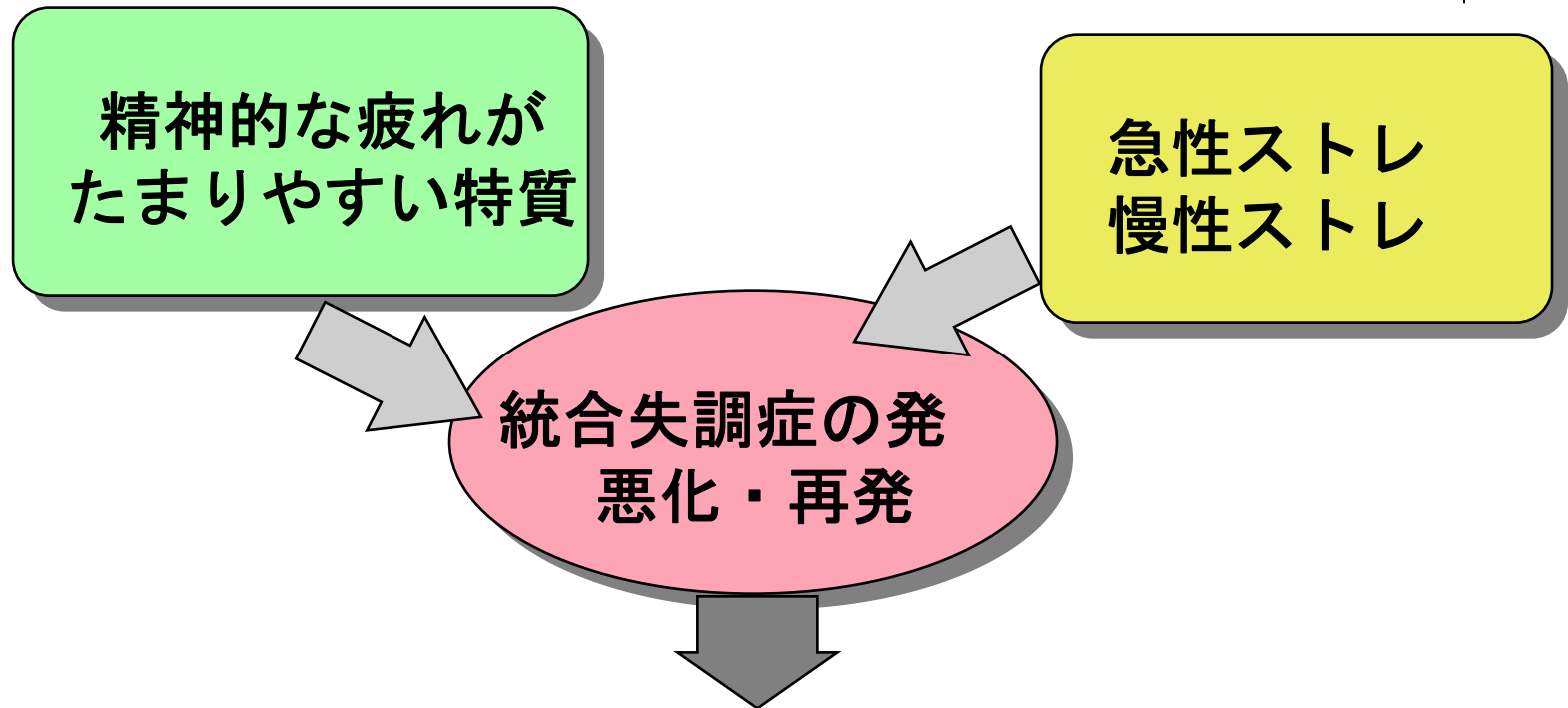
- パニック



統合失調症の経過(2)

- パニックから急性の統合失調症へ
- 急性のまま改善する例, 急性期を繰り返す例がある
- 急性期から慢性の妄想型へ(急性期の苦しい体験の「原因」がわかったと思いこむ)
- 急性期から慢性の非妄想型へ(絶望による)
- 妄想型から妄想の断片化が生じると非妄想型へ
- 慢性期から
 - 一種の病気慣れから, 病人と思われなくなる
 - 安定した対人関係が維持できない状況へ

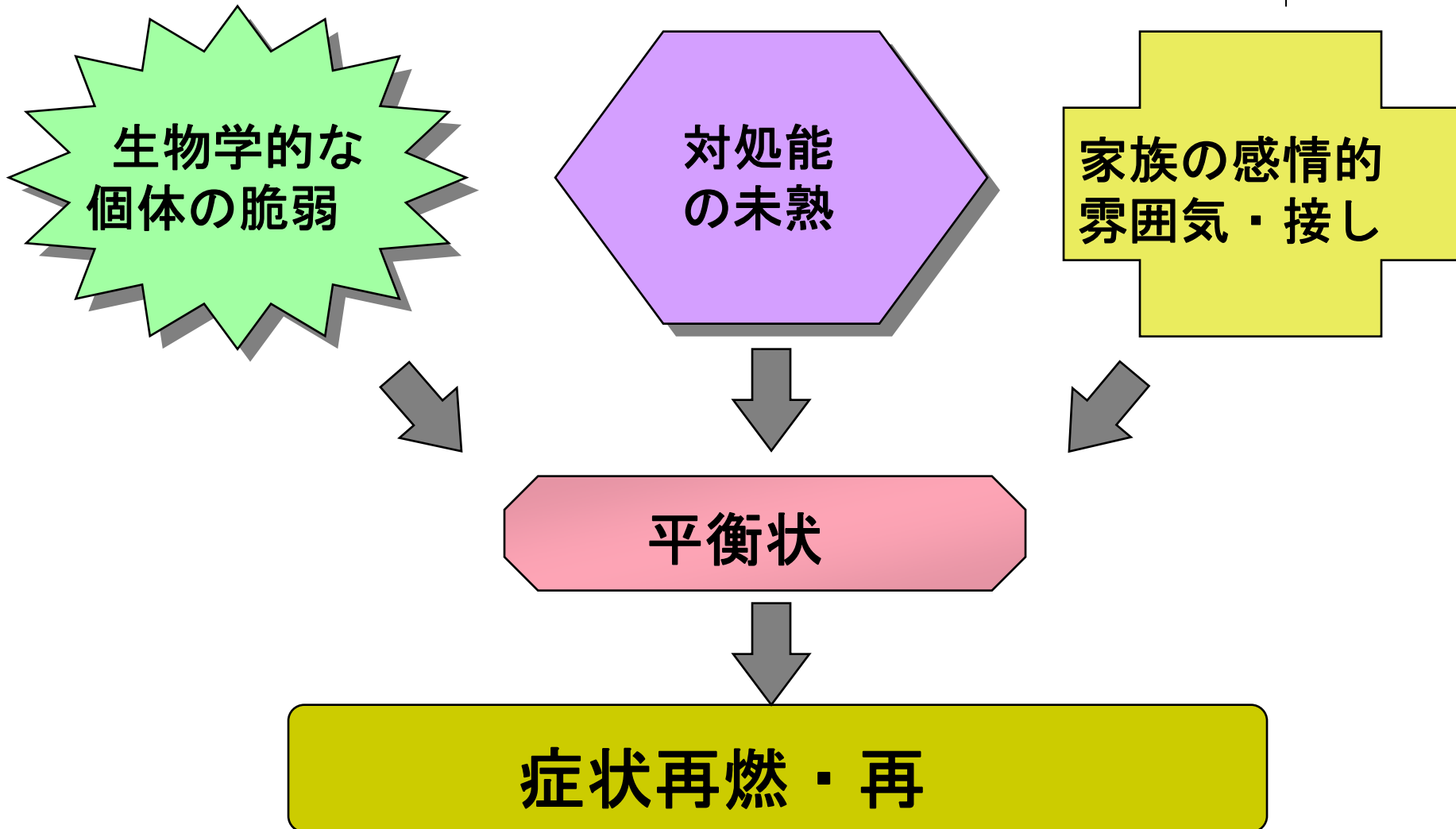
統合失調症はなぜ出現し、悪化するのか？（ストレス脆弱性モデル）

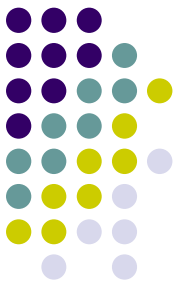


1. 今までやれたことができなくな
2. 新しいことへの適応力が減少す



ストレス—脆弱性—対処技能モデル





統合失調症の基礎知識

- 脳内の生物学的異常が原因であり，多くは慢性・再発性の経過をとる
- 15歳から40歳の発症が大部分である
- 生涯での罹患率は約1%で，全世界では約2千万人の人々がこの病気にかかっている
- 年間発病率は，15歳から54歳では 1万人に対して2から4である
- 遺伝は発病に関与はあるが，大きな割合ではない

心理社会的治療に関するコンセンサス勧告
The Expert Consensus Practice Guideline
Series; Treatment of Schizophrenia, 1996

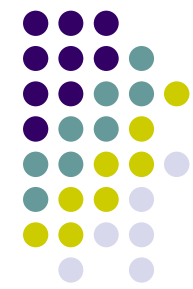


- 統合失調症に関する心理教育
- 薬物療法へのコンプライアンス, ストレスの回避, および前駆徴候の特定が重要であることを強調する心理教育
- 統合失調症患者の世話をする家族(関係者)の負担軽減のための対処技能トレーニング
- 家族同士の孤立を軽減するために, 複数の家族からなるグループを作る(セルフヘルプ)



寛解後の薬物使用の考え方

- 寛解後に少量の薬物を使用しても
 - 退院後二年間での再燃率は59%
- 薬物中断後
 - 退院後二年間での再燃率は76%
- この「エビデンス」をどう考えるか？
 - (エビデンス精神医療, 医学書院, 2000)

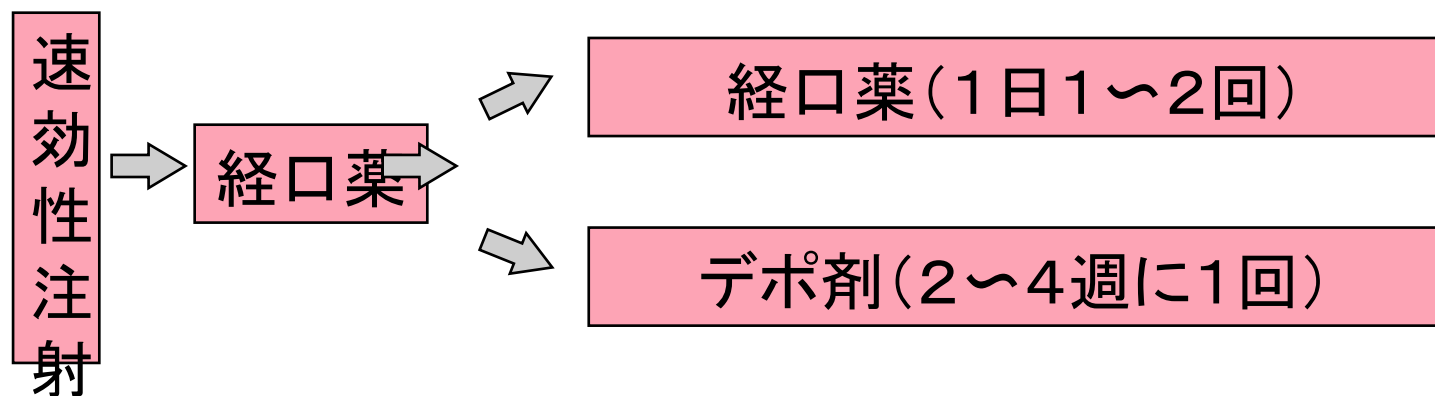
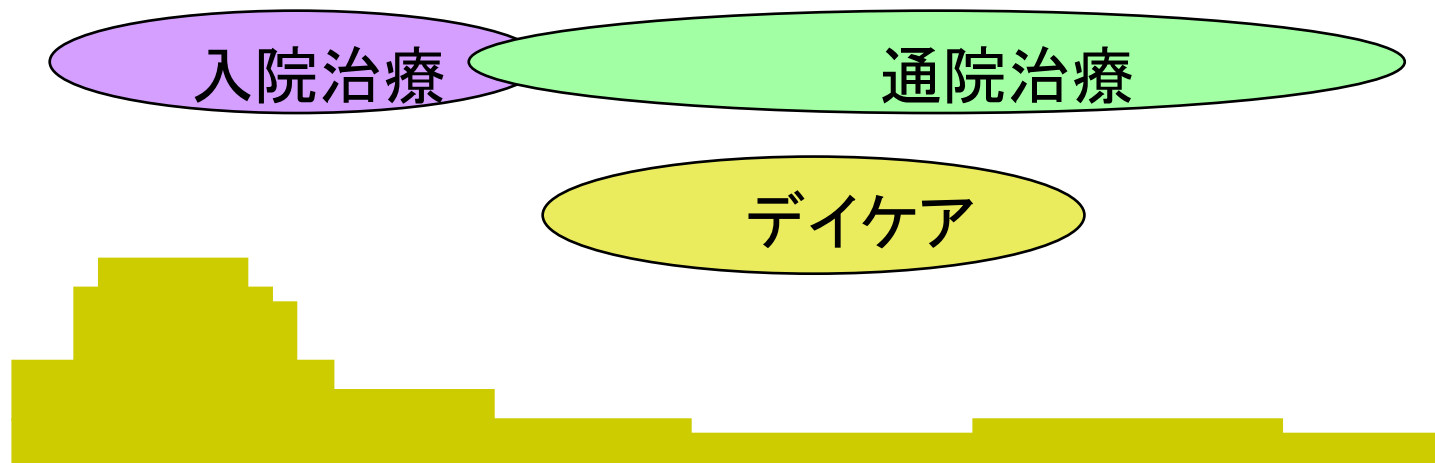


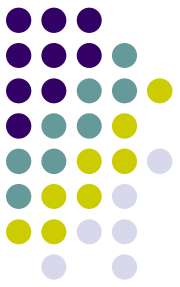
一般的な治療経過

急性期治

維持治

抗精神病薬投与量



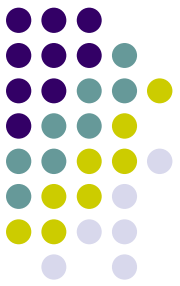


EE研究について

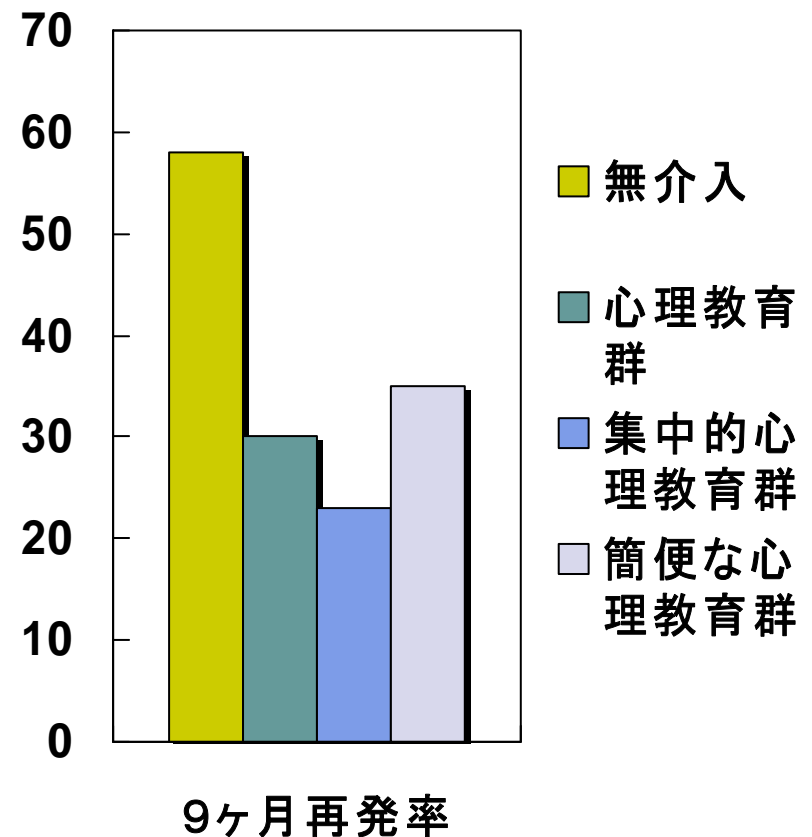
- **Expressed Emotion:感情表出, 表出される感情 精神分裂病の再発に影響を与える, 家族の表出感情家族と本人とのコミュニケーションについての研究**
 - ・批判的コメント
 - ・敵意
 - ・情緒的巻き込まれ
- こうした対応をしやすい家族を高EE家族しにくい家族を低EE家族と呼びます

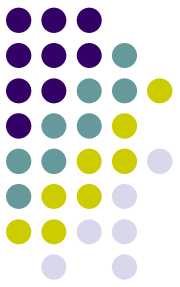
家族心理教育による予後調査

(統合失調症治療における家族支援のあり方:三野善央, こころの科学120, 2005, p93-98)



- 対象:高EE家族をもつ統合失調症者
- 9ヶ月後の再発割合を調査
- 無介入:58%
- 心理教育:30%
- 集中的心理教育:23%
- 簡便な心理教育:35%





SSTとは？

- **Social Skills Training** : 社会生活技能訓練対人関係上のコミュニケーションの技術, 対処能を身につけるためのトレーニングです
 - 拍手
 - ポジティブフィードバック(肯定的強化)
 - コレクティブフィードバック(修正的強化)
 - 宿題(実施練習)



躁うつ病の名称

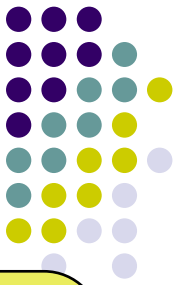
- 気分障害
- うつ病(性障害)
- 躁病(性障害)
- 単極性障害
- 双極性障害



うつ病について

- 1) 生物学的な素因に
- 2) 心理的・身体的状況因が加わり
- 3) 適応の障害(ホメオスターシスの破綻)が生じ
- 4) 発症する脳の病気
- 5) 主症状は抑うつ気分、喜びの喪失、悲観的考

精神障害におけるストレス脆弱性モデル



生物学的な
個体の脆弱

精神的な疲れが
たまりやすい特質

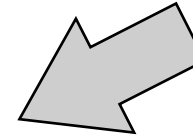
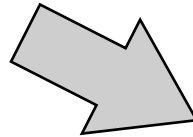
急性ストレ
慢性ストレ

対処能
の未熟

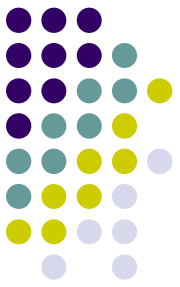
家族の感情的
雰囲気・接し

発達早期の障害
環境因子への遺伝的
脆弱性

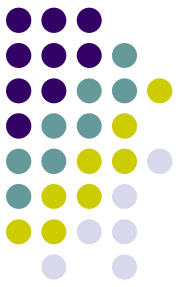
精神障害の発
悪化・再発



うつ病の病因



- 遺伝的要因
 - 家族歴が高頻度
 - 双極性 > 単極性
 - アルコール依存症や反社会的人格の関連
- 心理社会的要因
 - ライフイベント
 - 脆弱性要因
 - 幼少時期のストレス体験(親との離別・死別)
 - 虐待
 - 失業
 - 信頼できる人間関係の喪失
- 神経化学的要因
 - モノアミン仮説(モノアミン神経受容体の変化)
 - 視床下部-下垂体-副腎系の異常(ストレス反応、情動行動の制御を支配)
 - 脳由来神経栄養因子の発現の低下
- 神経病理的要因
 - 前頭前野、辺縁系(情動系)の構造的・機能的異常
 - 海馬の神経構築の発達の異常



うつ病の疫学

- **生涯有病率**
 - 約10%
 - 女性は男性の2倍
 - 典型的には30歳代に目立つ
 - 農村部より都市部が多い
- **最近の話題**
 - 軽症うつ病の増加
 - 自殺との関連
 - 子ども・青年期における増加

うつ病の症状



- 生物学的機能の変化
 - 睡眠
 - 食欲
 - 体重
 - 日内変動(起床後の悪さ)
- 気分の変化
 - 不安
 - いらいら
 - 抑うつ
 - 意欲の低下
 - 焦燥感
- 認知の変化
 - 注意力低下
 - 集中力低下
 - 否定的認知(自己、世界、将来)
- 思考内容
 - 罪責感
 - 無価値感
 - 自殺念慮
 - 気分一致した妄想
- 知覚異常
 - 幻聴



自殺との関係

- うつ病と自殺など
 - うつ病における生涯自殺率
 - 重症例で15%、軽症ではかなり低い
 - 予後不良因子
 - 若年発症、他の精神身体障害の有無、発症時の重篤度
- 自殺と関係の深い精神障害
 - うつ病(15%)
 - 統合失調症(10%)
 - アルコール依存症(3~4%)
 - 人格障害(30~60%)



うつ病の鑑別

- 死別などの正常の悲哀
- 重症の身体疾患状態における気分
- 統合失調症



治療と予後

- **精神療法**
 - 認知行動療法、問題解決型心理療法
 - 小精神療法
 - 一過性の症状
 - 大切な決定は棚上げ
 - 必ず元に戻る
- **薬物療法**
 - 抗うつ薬が60～70%に有効
 - 電気けいれん療法は重症例に有効
- **予後**
 - 症状持続は3ヶ月から8ヶ月程度
 - 20%は2年間持続
 - 再発率は50%



そう病（双極性障害）

- 定義

- 高揚気分もしくはは易怒的気分の持続（気分と活動性の上下の変化）

- 疫学

- 20歳代前半の発症
- 生涯有病率1%
- 男女比1:1.5

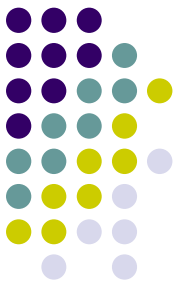
- 予後

- 再発が高頻度



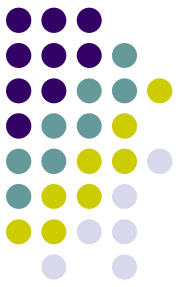
そう病（双極性障害）の症状

- 気分
 - 高揚あるいは易怒的
- 会話
 - 早口、多い会話量
 - だじゃれ、口が挟めない
- 行動
 - 脱抑制（性的・攻撃的）
 - 転導性の亢進
 - 多動・浪費
- 思考
 - 誇大的
 - 観念奔逸
 - 妄想（誇大的・被害的）
- 病識
 - しばしば希薄
- 睡眠
 - 減少
- 異常知覚
 - 幻聴



そう病(双極性障害)の鑑別

- 物質乱用
- 内分泌障害
- てんかん
- 統合失調症
- 適応障害



そう病（双極性障害）の治療

- 行動抑制としての入院
- 薬物
 - 抗精神病薬
 - リチウム
 - 電気けいれん療法
- 予防薬
 - リチウム
 - カルバマゼピン
 - バルプロ酸